

N
Plan 0 10(m)

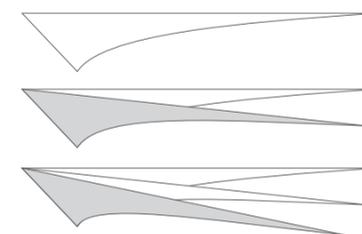
構造体によるシーケンス

柱から広がっていく構造体は 柱近くでは壁となりますが 離れるにつれて壁の領域を分けるは弱くなっていきます。

この性質を利用し 建築内部に周辺の動線を引き込み 内部で交差するように配置する事でこれが建つまでは起こり得なかった出来事が起こるかもしれません。

3種類のパターンによって建築全体を構成していきます。
それによって壁や屋根の密度が変化し空間に影響を及ぼします。

構造体パターン



Section 0 10(m)

